

坂井地区保護司会報



ひまわり

ひまわりは太陽に向かって強く伸びやかに花を開く。法務省提唱の「社会を明るくする運動」のシンボルでもある。非行や法を犯した人々も、ひまわりのように太陽をしっかりと捉えて明るく強い人間性を培って欲しい。

《発行人》坂井地区保護司会 会長 奥野 敏明

社会を明るくする運動 坂井市推進大会

第72回「社会を明るくする運動」坂井市推進大会が、7月2日(土)ハートピア春江において、市関係者、保護司、更生保護女性会、学校関係者、PTA、民生委員等約250名が参加して開催されました。

式典では内閣総理大臣メッセージが読み上げられ、池田市長、渡辺副議長に手渡され、参加者全員が犯罪や非行のない社会を築くことに決意を新たにしました。

また、「社会を明るくする運動」協賛作文の最優秀賞、優秀賞の表彰が行われ、最優秀賞に輝いた春江中学校2年 四ツ木智美さんの「少しの勇氣」の作文朗読も行われました。その後、作家で詩人の寮 美千子先生の「あふれでたのは やさしさだった」と題して講演があり、奈良少年刑務所で社会性と涵養する教育の講師として、「絵本と詩の教室」の実例を熱心に話されました。その中で大切な事は“安心安全の場所を確保する。認めてあげる。待つてあげる。寄り添う”などを挙げ、会場の参加者は熱心に耳を傾けていました。



坂井地区保護司会の皆さまにおかれましては、日頃より、犯罪や非行をした人の社会復帰のための支援や再犯防止、地域の犯罪・非行の予防など、様々な活動を通して、犯罪のない社会づくりにご尽力いただき、心から感謝いたします。また、犯罪の防止や、罪を犯してしまっただけの人々の立ち直りへの深い愛と熱意をもった献身的な活動に対しまして、心より敬意を表します。

さて、「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行の防止と、犯罪や非行をした人たちの更生についての理解を深め、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。坂井市では、七月の「社会を明るくする運動」の強調月間に、保護司の皆さまが、市内の小中学校・高校を訪れ、運動啓発のリーフレット配布を行いました。また、三年ぶりとなります「社会を明るくする運動」坂井市推進大会を開催しまして、ご参加いただきました大勢の方々には、大会の趣旨に共感していただき、更生について理解を深めていただくことができました。

坂井市としても、「笑顔」「挑戦」「協働」を市政のキーワードに、幸せと希望に満ちた坂井市の未来をめざして、笑顔と活気あふれるまちづくりを進めてまいります。

今後、保護司の皆さまが、関係団体、学校、家庭及び地域と一体となりまして、この運動を着実に推進され、市民の皆さまが安全で安心して暮らせる、犯罪のないまちづくりの実現に向けて、行政と共に取り組んでいただきますよう、ご支援やご協力をお願いいたします。



坂井市長
池田 禎孝

ごあいさつ

生きづらさを支える 地域の力

福井保護観察所 保護観察官 松田 栞里

坂井地区保護司会をはじめとした更生保護に携わられている皆様方におかれましては、日頃より更生保護の諸活動に御理解と御尽力を賜り、誠にありがとうございます。本年度より坂井地区を担当させていただくこととなりました。この御縁を大切にさせていただきます。御指導、御鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

人はなぜ犯罪や非行をするのでしょうか。その背景には、家庭内での居場所がないこと、心身に障害を持ったことによる社会での生きづらさ、失業したことによる貧困等、様々なものがあります。しかし、誰もが抱える可能性がある、他人事にはできない問題でもあります。このような、本来ならば周囲の助けや公的なサポートが必要なのに、生きづらさから犯罪に手を染めてしまうことは、とても悲しいことです。

では、一度犯罪や非行をしてしまった人達には、どのように立ち直ればよいのでしょうか。当然、本人の自助努力も必要です。しかし、人は一人で生きていくことはできませんから自分だけで、もがいていくことは限界が来てしまいます。そこで、周囲の力、地域の力が必要となります。変わらうとしてくれる人に手を差し伸べる。困りごとを聞いて相談に乗る。周囲に対する小さな思いやりの積み重ねが、新たな犯罪を未然に防ぐ力になります。

昨今のコロナ禍により直接触れ合うことが難しい今こそ、「生きづらさを生きていく」人々の居場所が必要です。御支援、御協力をお願いいたします。

犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域のチカラ

「協力雇用主」を募集しています。

犯罪や非行をした人たち(刑務所出所者等)は、再び地域に帰ってきます。

これらの人たちが再犯や再非行に至らないためには、仕事に就き、職場に定着して、責任ある社会生活を送ることが重要です。再犯や再非行を防止するためには、協力雇用主の存在が不可欠です。

現在坂井市では24社が登録されています。

※協力雇用主の方々の不安を軽くするために、国の支援制度があります！

【連絡先】坂井地区保護司会
〒919-0522 坂井市坂井町上新庄28-5-3
坂井健康センター2階
TEL.0776-43-1371 FAX.0776-43-1372

本年春の叙勲で 瑞宝双光章受章して

奥野 敏明

この度の春の叙勲に際しまして、はからずも瑞宝双光章拝受の栄に浴しました。身に余る栄誉を賜り、身の引き締まる思いでございます。丸三十年、いろいろな罪を犯した人たちと関わってこまじが家族の協力、理解、そして皆様の心温かいご指導ご鞭撻の賜と深く感謝致しております。

今後はこの栄誉を心にきざみ一層の精進を致す所存でございますので何卒ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

更生保護サポートセンター坂井

更生保護に関する相談なんでも受けます。お気軽においでください。

月曜日から金曜日(祝祭日は除く)午前9時30分から午後3時30分まで企画調整保護司が常駐しています。

〒919-0522 坂井市坂井町上新庄28-5-3
坂井健康センター2階
電話:0776-43-1371 FAX:0776-43-1372
E-mail:kouseihogo-sakai@shore.ocn.ne.jp



編集後記

三年ぶりに推進大会が開催されました。寮美千子先生のご講演で、奈良少年刑務所で行われた「絵本と詩の教室」でのエピソードに、会場にいた多くの方が涙をぬぐいました。深く傷ついた少年の言葉を「待つ」ことで自分の心と向き合い、感情をとり戻していく様子が涙が溢れました。立ち直りを支える地域でありたいと願っています。(三宅)

新任保護司

よろしく申し上げます。

田中 幸子 (三国町)
北倉 芳忠 (三国町)
梶間 幸恵 (丸岡町) (敬称略)

退任保護司

ご苦勞様でした。

池上 三枝子 (三国町)
前田 由記子 (丸岡町)
斉藤 重一 (三国町)
半澤 恵子 (三国町)
文珠 康祐 (坂井町)

奥野さん「叙勲受章」おめでとございませう。

三年ぶりの「社会を明るくする運動」

坂井市推進大会



坂井地区保護司会
会長 奥野 敏明

暑い中の「社会を明るくする運動」坂井市推進大会が三年ぶりに開催され、これもひとえに日頃の更生保護事業関係者及び、関係団体の皆様のお力添えと感謝申し上げます。

特に作文コンテストでは、成長期の中学校二年生の皆さんに犯罪について考えていただき、罪を犯した人の立ち直りの支え、地域での居場所作りなどが大切だということが書かれており、大いに心を動かされました。

私たち保護司は、対象者の保護観察期間が終わっても、その後の暮らしにも目を向けなければならないと思います。

お世話になりました市内中学校の先生方、二年生のみならずには感謝申し上げます。

また、講演は、「あふれでたのはやさしさだった」奈良少年刑務所 絵本と詩の教室」の演題で、寮美智子先生が社会性涵養プログラム講師として経験した実話で、とても感動致しました。

やはり犯罪を起こさない、犯罪のない安心して暮らせる社会を作っていくためには、関係機関の皆様を始め、地域の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

各地区の社会を明るくする運動

三国町



幟旗設置

丸岡町



幟旗設置

春江町



あいさつ運動

坂井町



更生保護教室

最優秀作文

春江中学校二年 四ツ木 智美

少しの勇氣



ある日、動画を見てみると、一人のアイドルが踊っている動画が流れてきた。彼女は、二年間少年院にいたという文と一語に投稿していた。批判のコメントも多かった。「少年院あがり売りにするのは違う。」「自慢気なことじゃないでしょ。」

私も初めはそう思って、彼女を偏見の目で見ていた。でも、彼女はキラキラ楽しそうに歌って踊っていたから、私は彼女のことが気になって調べた。子供の頃、両親の離婚から虐待、育児放棄、いじめなどがあり自殺未遂をしたこともあった。お金に困って軽犯罪をして、後に傷害事件を起こし、二年間少年院で暮らしていた。出所後は、更生しアイドルとして活動し、同じような境遇の人と関わることができ、仕事をするため大学にも通るなど幅広い分野で活躍していた。彼女が、ここまで成し遂

げることができたのは、アイドルとしての「居場所」があったからだと思っただ。犯罪を犯してしまっただ人でも、自分と同じように苦しんでいる子供がいるなら、助けたいという気持ちで児童支援をしたり大学に通ったり、ここまで更生できることに、とても驚いた。彼女の動画は、少年院を自慢したいのではなく、「居場所」があれば更生してまた頑張れるんだよ、ということを伝えたかったのではないかと思っただ。毎年、約六千四百人の受刑者が出所しているが、そのうち三人に一人は二年以内に戻ってきているという現状がある。その人たちがもう二度と犯罪を繰り返さないようにするには、差別や偏見を持たずに、居場所をあたえることが大切だと思っただ。あのアイドルが、更生できたように、何か居場所をつくってあげること、犯罪を犯してしまっただ人でも、「ここが自分の居場所だ。」と前

向きになって、頑張れると思っただ。私も初めは、犯罪を犯した人を差別し、偏見の目で見ていた。「なんでこんなことができるのだろう」と思っただ。でも今もニュースを見ていた。でも今は違う。犯罪は許されることではないけれど、過去に虐待やいじめがあっただとか、その人なりの理由があるから、犯罪を犯す前に、話を聞いて寄りそってみたり、犯罪を犯してしまっただ後でも、気持ちを理解してまた新しい居場所をつくって、犯罪が減るような社会になってほしいと思っただ。

今の社会は、犯罪を犯した人の居場所が少ないように感じている。初めは、怖いとか犯罪を犯した人への偏見が誰でもあると思う。けれど、犯罪を犯してしまっただ人でも居場所を探している。それに社会も、勇気を出してこたえてあげなければならぬと思う。更生するために頑張るのは、犯罪を犯した人だけでは、この社会から犯罪は減らない。ほんの少しの勇氣で、犯罪を犯した人が更生できる居場所をつくることは、犯罪が減って社会をもっと明るくできるのだ。

社会を明るくする運動 作文コンテスト



佳作 二十点

丸岡南中学校 堀 柚葉さん

「罪を犯してしまった人の更生を支援する活動について」

丸岡南中学校 小西 明里さん

「つながりのある社会へ」

三国中学校 宮澤 結衣さん

「心の居場所」

坂井中学校 森 久依さん

「根っこにあるもの」

丸岡中学校 森 久依さん

優秀賞

春江中学校 四ツ木智美さん

最優秀賞

「少しの勇氣」

春江中学校 四ツ木智美さん

応募総数 七百七十九点

(坂井市内中学校二年生)